

事業説明シート 6 幹線道路整備事業（南部中央線）（継続）

部局課所 建設部道路建設課  
 総合計画 1章3節1項  
 重点テーマ 環境と調和したまちづくりの推進

【 事業の目的】 近年当路線周辺は、急速に宅地化が進み交通量が増大してきていることから、幹線道路としての連続性確保による国道7号、13号への交通負荷の軽減と渋滞緩和が図られる。	【 事業の対象】 全市
【 全体事業概要】 L=2,200m、W=20.0m H11～H20	【 国県施策名】 緊急地方道路整備事業 【 国補助率】 5.5/10 【 県補助率】 【 起債充当率】 95%

【 期間別事業概要】

前期：H15～H17 国道7号及び13号の交通負荷を軽減し交通渋滞を緩和するなどのため、仁井田工区（L＝1450m）の完成と茨島工区（L＝750m）の事業促進を図る。	後期：H18～H22 南部中央線の全線開通によるネットワーク効果を発現するため、残りの茨島工区の早期完成を図る。
--	---

事業評価シート 6 幹線道路整備事業（南部中央線）（継続）

【 事業成果(アウトカム)指標】

指標	事業進捗率				
選定理由	事業の成果を進捗率以外の客観的な指標で設定することが困難				
計算・推計方法	当該年度までの事業費 / 全体事業費(C=3,756,000千円)				
留意事項					
指標の推移	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
目標	19%	26%	39%	52%	65%
実績	19%	26%			
事業成果指標・備考					

【 制度・事業の見直し(廃止)】

<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有	
--	--

【 民間事業との競合、事業外部の条件整備、他部局との連携】

<input type="radio"/> 問題無 <input checked="" type="radio"/> 要配慮	鉄道との立体交差や堤防との近接工事となることから、JRや河川管理者との協議が必要。
--	---

【 住民ニーズ、行政需要の動向】

<input checked="" type="radio"/> 増加傾向 <input type="radio"/> 不変 <input type="radio"/> 減少傾向	仁井田地区振興会等より早期完成要望有り。
---	----------------------

【 市民共生、男女共生の視点】

<input type="radio"/> 反映済 <input type="radio"/> 反映余地有 <input checked="" type="radio"/> 関連せず	
---	--

【 市町合併との関連】

<input type="radio"/> 関連無 <input checked="" type="radio"/> 関連有	茨島工区の完成後の南部中央線は、河辺・雄和両町と本市南西地区を經由して中心部とを結ぶ幹線道路として、新しい市の道路網の骨格的な役割を果たす重要な路線となる。
--	--

【 市が今行う必要性】

<input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> 有	南部中央線の全線開通による整備効果を早期に発揮させる必要がある。
--	----------------------------------



事業説明シート 7 電線共同溝整備事業(継続)

部局課所 建設部道路建設課  
 総合計画 1章3節2項  
 重点テーマ IT革命に伴う社会変化への対応

【 事業の目的】 安全で快適な通行空間の確保、都市災害の防止、情報通信ネットワークの信頼性及び、都市景観の向上を図る。	【 事業の対象】 全市
【 全体事業概要】 新電線類地中化計画(H11～H15)に基づき、秋田市地域防災計画における緊急輸送路等、延べ延長6,502mを整備する。 H12～H15年度 川尻広面線(南大通り) L=1,982m H16～H18年度 大堰反線 L=800m H18～H20年度 秋田環状線 L=820m H20～H26年度 川尻広面線(広面地内) L=2,900m	【 国県施策名】 市町村道事業 【 国補助率】 5.5/10 【 県補助率】 【 起債充当率】 95%

【 期間別事業概要】	
前期:H15～H17 電線類の地中化を進め、都市災害の防止、都市景観の向上等をはかる。(川尻広面線L=257m、大堰反線L=400m)	後期:H18～H22 電線類の地中化を進め、都市災害の防止、都市景観の向上等をはかる。(大堰反線L=400m、秋田環状線L=820m、川尻広面線L=960m)

事業評価シート 7 電線共同溝整備事業(継続)

【 事業成果(アウトカム)指標】

指標	電線共同溝整備済延長率				
選定理由					
計算・推計方法	電線共同溝整備済延長 / 平成17年度までの計画対象総延長				
留意事項	新電線類地中化計画(H11～15)における指定路線は川尻広面線だけであり、次期計画(H16～)において、電線管理者の意見を聴き、次期整備路線が決定する。				
指標の推移	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
目標	35.2%	72.4%	83.2%	83.2%	100.0%
実績	35.2%	72.4%			
事業成果指標・備考	川尻広面線 H15完成 L=1,982m 大堰反線 H16～17 L=400m				

【 制度・事業の見直し(廃止)】

● 無 ○ 有	
【 民間事業との競合、事業外部の条件整備、他部局との連携】	
● 問題無 ○ 要配慮	電線共同溝の整備等に関する特別措置法(平成7年法律第39号)により道路管理者が行う事業と定められている。
【 住民ニーズ、行政需要の動向】	
● 増加傾向 ○ 不変 ○ 減少傾向	災害時におけるライフラインの信頼性の確保及び都市景観の向上の観点から、電線類の地中化が強く求められている。
【 市民共生、男女共生の視点】	
○ 反映済 ○ 反映余地有 ● 関連せず	
【 市町合併との関連】	
● 関連無 ○ 関連有	
【 市が今行う必要性】	

○ 無 ● 有	安全で災害に強いまちづくりの推進のため、電線類の地中化を早急に 進める必要がある。 川尻広面線については、法第3条により、平成12年6月21日付、秋田市 告示第143号で、電線共同溝を整備すべき道路の指定を行っている。
---------	--

事業説明シート 8 歩道消融雪設備整備事業（雪みち計画）（継続）

部局課所 建設部道路維持課  
 総合計画 1章3節3項  
 重点テーマ

【 事業の目的】 冬期の安全で快適な歩行者空間確保を目的に、機械除雪と融雪施設を組み合わせ、歩道をネットワーク化し地域の活性化を図る。	【 事業の対象】 全市
【 全体事業概要】 冬期の中心市街地における歩道ネットワーク化を図る事業である。 歩道無散水消融雪施設の設置 H12～15年度 川尻広面線 L=1,982m H16～18年度 大堰反線 L= 800m H18～20年度 秋田環状線 L= 820m H20～22年度 中通牛島線 L=1,080m H23～26年度 中通本線 L=1,980m	【 国県施策名】 雪寒事業 【 国補助率】 6/10 【 県補助率】 【 起債充当率】 95%

【 期間別事業概要】	
前期:H15～H17 川尻広面線L=257m 大堰反線L=400m	後期:H18～H22 大堰反線L=400m 秋田環状線L=820m 中通牛島線L=1,080m

事業評価シート 8 歩道消融雪設備整備事業（雪みち計画）（継続）

【 事業成果(アウトカム)指標】

指標	融雪計画整備済延長				
選定理由					
計算・推計方法	融雪計画整備済延長 / 平成17年度までの計画対象総延長				
留意事項					
指標の推移	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
目標	35.2%	72.4%	83.2%	83.2%	100%
実績	35.2%	72.4%			
事業成果指標・備考	川尻広面線 H15完成 L=1,982m 大堰反線 H16 L= 400m				

【 制度・事業の見直し(廃止)】

● 無 ○ 有	
【 民間事業との競合、事業外部の条件整備、他部局との連携】	
● 問題無 ○ 要配慮	冬期の歩行者空間確保は、それぞれの道路管理者が行う。
【 住民ニーズ、行政需要の動向】	
● 増加傾向 ○ 不変 ○ 減少傾向	高齢者や障害者の社会参加が進んでおり、冬期の安全な歩行者空間の確保が強く望まれている。
【 市民共生、男女共生の視点】	
○ 反映済 ○ 反映余地有 ● 関連せず	
【 市町合併との関連】	
● 関連無 ○ 関連有	
【 市が今行う必要性】	
○ 無 ● 有	国、県、市の道路管理者がそれぞれ連携し、冬期の歩道ネットワーク化を図る必要がある。



事業説明シート 11 交差点改良事業(継続)

部局課所 建設部道路建設課  
 総合計画 章3節2項  
 重点テーマ 2 環境と調和したまちづくりの推進

【 事業の目的】 渋滞交差点に、隅切りおよび付加車線等を設け、交通流改善と安全性の向上を図るものである。	【 事業の対象】 全市
【 全体事業概要】 ・見通し確保のための隅切り設置 ・交差点流入部における付加車線の設置 秋田信用金庫土崎支店前交差点(H13～H14) 古川添交差点(H15～H16) 鉄砲町交差点(H16～H18) 寺内交差点(H18～H20)	【 国県施策名】 【 国補助率】 【 県補助率】 【 起債充当率】 95%

【 期間別事業概要】	
前期:H15～H17 渋滞交差点に、隅切りおよび付加車線等を設け、交通流改善と安全性の向上を図るものである。(1箇所)	後期:H18～H22 渋滞交差点に、隅切りおよび付加車線等を設け、交通流改善と安全性の向上を図るものである。(2箇所)

事業評価シート 11 交差点改良事業(継続)

【 事業成果(アウトカム)指標】

指標	予定箇所数に対する整備状況				
選定理由	慢性的な渋滞の解消を示す				
計算・推計方法	事業着手箇所数 / 整備予定箇所数 ( )内は整備済み箇所数				
留意事項					
指標の推移	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
目標	1/4	1/4(1)	1/3(1)	2/3(2)	1/2(2)
実績	1/4	1/4(1)			
事業成果指標・備考	秋田信用金庫土崎支店前交差点：H13～H14 古川添交差点（秋田県の第3次渋滞対策プログラムへ位置づけあり） ：H15～H16 鉄砲町交差点：H16～H18 寺内交差点：H18～H20				

【 制度・事業の見直し(廃止)】

● 無 ○ 有	
【 民間事業との競合、事業外部の条件整備、他部局との連携】	
● 問題無 ○ 要配慮	市道の管理は、道路管理者(市)が行うこととされている。
【 住民ニーズ、行政需要の動向】	
○ 増加傾向 ● 不変 ○ 減少傾向	交通渋滞解消
【 市民共生、男女共生の視点】	
○ 反映済 ○ 反映余地有 ● 関連せず	
【 市町合併との関連】	
● 関連無 ○ 関連有	
【 市が今行う必要性】	
○ 無 ● 有	市道交差点であり、管理者である市が行う。





事業説明シート 23 除排雪関係経費(継続)

部局課所 建設部道路維持課  
 総合計画 1章3節3項  
 重点テーマ 2環境と調和したまちづくりの推進

【 事業の目的】 だれもが安全で安心して通行できる冬期道路の確保を図る。	【 事業の対象】 全市
【 全体事業概要】 冬期における安全で円滑な道路交通の確保を図るため、除排雪計画に基づき実施する。	【 国県施策名】 【 国補助率】 【 県補助率】 【 起債充当率】

【 期間別事業概要】

前期:H15～H17 除排雪計画に基づく除排雪の実施	後期:H18～H22 除排雪計画に基づく除排雪の実施
-------------------------------	-------------------------------

事業評価シート 23 除排雪関係経費(継続)

【 事業成果(アウトカム)指標】

指標	除雪延長				
選定理由	市道認定等に伴う除雪路線の増加				
計算・推計方法	年間25.8km				
留意事項					
指標の推移	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
目標	1,271km	1,297km	1,323km	1,348km	1,374km
実績	1,271km	1,297km			
事業成果指標・備考	市民との協力体制(堆雪場の確保、無料貸し出し制度の活用)を強化し、市民ニーズ(市民要望は排雪、積もった雪が融ける時の早期除雪)に応えられるように事業を推進する。				

【 制度・事業の見直し(廃止)】

● 無 ○ 有	
---------	--

【 民間事業との競合、事業外部の条件整備、他部局との連携】

● 問題無 ○ 要配慮	市道の維持管理は、道路管理者が行う。
-------------	--------------------

【 住民ニーズ、行政需要の動向】

● 増加傾向 ○ 不変 ○ 減少傾向	12年度は、部局横断的に職員を本部に配置し、13年度は、狭隘道路の除排雪の強化を図るため小型除雪機械を増強するなど、効率的な除排雪作業を実施しているが、早期除雪に対する要望は依然多い。 過去3カ年の苦情(要望)件数 平成11年度 3,000件 平成12年度 2,000件 平成13年度 1,300件 平成14年度 1,500件
--------------------	--

【 市民共生、男女共生の視点】

● 反映済 ○ 反映余地有 ○ 関連せず	役割分担を明確にした上でのパートナーシップ体制を推進する。
----------------------	-------------------------------

【 市町合併との関連】

● 関連無 ○ 関連有	
-------------	--

【 市が今行う必要性】

○ 無 ● 有	道路管理者は、冬期間においても道路を良好な状態に維持管理し、交通の安全を確保する必要がある。
---------	--



事業説明シート 30 街路事業 土崎駅前線(継続)

部局課所 建設部道路建設課  
 総合計画 1章3節1項  
 重点テーマ 環境と調和したまちづくりの推進

【 事業の目的】 JR土崎駅の交通結節点としての機能を十分に発揮させるとともに、駅前周辺の狭隘な道路を拡幅整備する。	【 事業の対象】 全市
【 全体事業概要】 土崎駅前線L=348mW=18m 駅前広場A=4,500㎡ H13～H20	【 国県施策名】 結節点改築 【 国補助率】 1/2 【 県補助率】 【 起債充当率】 55%

【 期間別事業概要】	
前期:H15～H17 調査・設計、用地取得、補償等を実施する。	後期:H18～H22 用地取得、補償、街路築造工事等を実施し、事業の完成を図る。

事業評価シート 30 街路事業 土崎駅前線(継続)

【 事業成果(アウトカム)指標】

指標	事業進捗率				
選定理由	事業の成果を進捗率以外の客観的な指標で設定することが困難				
計算・推計方法	当該年度までの事業費 / 全体事業費 (C = 2,635,200千円)				
留意事項					
指標の推移	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
目標	0.4%	2.8%	15.0%	38.3%	58.1%
実績	0.4%	2.8%			
事業成果指標・備考					

【 制度・事業の見直し(廃止)】

● 無 ○ 有	
【 民間事業との競合、事業外部の条件整備、他部局との連携】	
○ 問題無 ● 要配慮	JRとの協定に基づいて駅前広場の整備を行うため、JRとの事業調整を図る。
【 住民ニーズ、行政需要の動向】	
○ 増加傾向 ● 不変 ○ 減少傾向	土崎地区からは、早期整備の要望がある。
【 市民共生、男女共生の視点】	
○ 反映済 ○ 反映余地有 ● 関連せず	
【 市町合併との関連】	
● 関連無 ○ 関連有	
【 市が今行う必要性】	
○ 無 ● 有	北部地域住民の利便性の向上を図るため、地域中心の土崎駅周辺の整備が急務である。

事業説明シート 32 街路事業 秋田環状線外1線(築山工区)(継続)

部局課所 建設部道路建設課  
 総合計画 1章3節1項  
 重点テーマ 環境と調和したまちづくりの推進

【事業の目的】 環状道路のネットワーク化により円滑な交通流動の確保を図る。	【事業の対象】 全市
【全体事業概要】 秋田環状線L=445mW=16m 新屋十軒町線W=173mW=11m H14～H19	【国県施策名】 【国補助率】 【県補助率】 【起債充当率】 90%

【期間別事業概要】	
前期:H15～H17 調査、用地取得、補償等を実施する。	後期:H18～H22 用地取得、補償、街路築造工事等を実施し、事業の完成を図る。

事業評価シート 32 街路事業 秋田環状線外1線(築山工区)(継続)

【事業成果(アウトカム)指標】

指標	事業進捗率				
選定理由	事業の成果を進捗率以外の客観的な指標で設定することが困難				
計算・推計方法	当該年度までの事業費 / 全体事業費 (C = 2,032,900千円)				
留意事項					
指標の推移	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
目標	0	1.2%	15.0%	36.6%	63.0%
実績	0	1.2%			
事業成果指標・備考					

【制度・事業の見直し(廃止)】

● 無 ○ 有	
---------	--

【民間事業との競合、事業外部の条件整備、他部局との連携】

● 問題無 ○ 要配慮	
-------------	--

【住民ニーズ、行政需要の動向】

○ 増加傾向 ● 不変 ○ 減少傾向	築山地区および愛宕下地区から、早期完成の要望がある。
--------------------	----------------------------

【市民共生、男女共生の視点】

○ 反映済 ○ 反映余地有 ● 関連せず	
----------------------	--

【市町合併との関連】

● 関連無 ○ 関連有	
-------------	--

【市が今行う必要性】

○ 無 ● 有	環状道路のネットワークの確立が必要である。 周辺の狭隘道路・一方通行道路に代わる牛島・檜山地区内幹線道路の整備が急務である。
---------	---

事業説明シート 33 県施行秋田中央道路整備事業負担金(継続)

部局課所 建設部道路建設課  
 総合計画 1章3節1項  
 重点テーマ 環境と調和したまちづくりの推進

<p>【 事業の目的】                  高速交通時代に対応した地域高規格道路として、都心部の交通渋滞の緩和はもとより、中心市街地をはじめ市内各地域の均衡ある発展、県内外との交流拡大に寄与する。</p>	<p>【 事業の対象】                  全市</p>
<p>【 全体事業概要】                  旭北錦町～手形字西谷地(自動車専用道路)                  L=2,410m W=9.75m ランプ部L=265mW=6m                  掘削区間L=355m                  トンネル区間L=1,975m                  (開削区間L=447m シールド区間L=1,524m シールド到達部L=4m)                  地上部L=80m                   H9～H19</p>	<p>【 国県施策名】                  【 国補助率】                  【 県補助率】                  【 起債充当率】</p>

【 期間別事業概要】

<p>前期:H15～H17                  駅東側開削工、お堀部開削工、JR横断部対策工、シールド機製作及び掘進工、ランプ部開削工、旭北側開削工、換気所建築、補償</p>	<p>後期:H18～H22                  駅東側開削工、シールド掘進工、旭北側開削工、換気所建築、舗装、内装工</p>
--	---

事業評価シート 33 県施行秋田中央道路整備事業負担金(継続)

【 事業成果(アウトカム)指標】

指標					
選定理由					
計算・推計方法					
留意事項					
指標の推移	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
目標					
実績					
事業成果指標・備考	受益の限度における負担であれば、義務的な経費であり、指標の表示はしない。 (参考) 秋田中央道路整備による時間短縮効果 現状～山王十字路-秋田中央IC間 約30分(冬期間約64分) 完成後～同区間 約13分(冬期間約21分)				

【 制度・事業の見直し(廃止)】

<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有	
--	--

【 民間事業との競合、事業外部の条件整備、他部局との連携】

<input checked="" type="radio"/> 問題無 <input type="radio"/> 要配慮	
--	--

【 住民ニーズ、行政需要の動向】

<input type="radio"/> 増加傾向 <input checked="" type="radio"/> 不変 <input type="radio"/> 減少傾向	
---	--

【 市民共生、男女共生の視点】

<input type="radio"/> 反映済 <input type="radio"/> 反映余地有 <input checked="" type="radio"/> 関連せず	
---	--

【市町合併との関連】	
○ 関連無 ● 関連有	本市都心部と河辺・雄和両町との高速交通網を担う基幹施設である。県は市町村合併支援道路整備計画(都道府県道等分)の策定を検討中。策定後は計画に位置づけられた対象路線の負担金に対して合併推進債の充当が可能。
【市が今行う必要性】	
○ 無 ● 有	秋田市に利する県施行街路事業であり、経費負担には応じる必要がある。